

「津東部」図幅地域は 伊勢湾を臨む津市から鈴鹿市白子町の領域を含みます。古来この地域は「安濃郡の港」を意味する安濃津と呼ばれていました。地質図を見ると 沖積平野は現在の海岸線まで達していますが 黄色で塗色された砂州・砂堆積物の背後は室町時代には滞水域であり 特に岩田川河口では天然の良港となっていました。安濃津の名は遠く明国にまで達し 「日本三津の一」として良く知られていたことが古文書からうかがえます。安濃津が現在の津市に改まったのは 明治22年のごく最近のことでした。

沖積平野の背後には段丘と丘陵地帯が広がっています。段丘は中期-後期更新世に形成されたもので 6段の段丘に分けられます。丘陵のてっぺんには 点々と中部更新統の見当山果層やその相当層が分布します。丘陵主体を形成するのは鮮新統の東海層群です。東海層群は淡水性の粘土・シルト・砂から構成され時に火山灰層を挟んでいます。地質図で示した火山灰層のうち 阿漕火山灰層は厚さが10m以上にもなり いまでもみがき砂として採掘されています。蛇足ですが 「あこぎな奴だ」などに使う 「あこぎ」は 図幅地域南端の阿漕浦から由来するそうです。しかし歩いてみると 街の人たちは「あこぎ」どころか親切な人たちばかりでした。なお三重県立博物館には 北黒田の東海層群から発見されたステゴドン象の立派な化石が陳列されており これは一見の価値があります。

さて「津東部」図幅地域の地質が良く観察できる巡検コースを紹介します。面積としては狭いので日帰りで充分でしょう。見当山果層は本図幅地域では良い露頭がないので 対象から省きました。なお 地点番号は 図幅説明書の付図を参照して下さい。



①千里ヶ丘→②三行→③南黒田の順に歩きます。

①では 旧期高位段丘面が撓曲する様子、東海層群の変形の状態(地点12)を観察します。②では原田川・原田川-U火山灰層(地点30・32) 東海層群の堆積相(地点26)などが見所です。その後 道を大里方面に取り 南黒田に向かいましょう。途中 野村・野村-L1火山灰層を観察(地点57)し 地点58で野村-L2火山灰層や東海層群を見ておしまいです。健脚自慢の人 あるいは時間に余裕のある人は 津市駅前の三重県立博物館を訪れることをおすすめします。



5万分の1地質図幅の新刊

津 東 部

TSU-TOBU

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著 者 吉田史郎  
 発 行 工業技術院 地質調査所  
 取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401  
 そのほか全国主要書店  
 販売価格 1840円

地 質 ニ ュ ー ス	第 396 号	8 月 号
	定 価 〃 630	〒 実 費
昭和62年 8 月 1 日	発 行	
編 集	工業技術院地質調査所	
発 行 人	林 久 雄	
発 行 所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	出版事業部

©1987 Geological Survey of Japan